

## 西部センターだより

3号

R3.3.1

「一陽来復の春！」 立春を過ぎる頃から、日差しが長くなるのが実感でき、夕焼け空の中を帰宅する日も増えてきました。「夕暮れ」は、平安の昔から秋を思い起こす言葉ですが、春の夕暮れも、明日の陽光を期待させ趣があります。

立春を挟んで、当センターは、国社研が実施する「社会教育主事講習B」の地方会場として慌ただしい日々を過ごしました。今年は、主会場である東京の国社研に受講生を集めることができず、変更に変更を繰り返しながら実施されました。

「講義」は全てインターネット配信で、各自がそれぞれで講義資料をダウンロードし、視聴する。センター等からの連絡や提出物は、電子メールを使う…。など、受講生の皆さんも大変だったと思いますが、センターのスタッフも想定していた運営方法が急に変わったり、新たな調整課題も発生したり、一段と慌ただしく感じました。

『「地域課題」とは、『地域住民の共同的生活課題、すなわち多くの地域住民が共通して直面していると同時に、その解決が個人的には不可能であって、地域住民の共同の取組によってはじめて可能となるような生活課題』である<sup>ii</sup>。社会教育主事講習で、今年度から始まった「社会教育経営論」のハンドブックをひもとくと、「地域課題」という言葉がこれまで以上にクローズアップされているように思いました。また、このハンドブックでは、大きく変革する社会の中で、社会教育の果たす役割やその必要性和同時に、様々な取組の可能性とその期待が示されています。

学校教育、特に義務教育には、「教育しなければならない」側面がありますが、社会教育の場合は、「○○しなければならない」ということはほとんど無いと考えています。ただし、社会教育行

政には、いくつかの義務や努力項目が掲げられており、その一環として、当センターも地域の皆さんを対象に研修を実施しています。「義務」や「努力」的な目標を達成するためには、根拠や取組を明確にした「PDCA サイクル」で計画をつくることが多くあります。一方、「地域課題の解決に向かう社会教育」は、様々な可能性や期待感が出発点であり、取組に対するワクワク感がとても大切だと思います。

「地域課題は住民の関心ごとの最大公約数<sup>iii</sup>という例えもあります。ひょっとすると、話し合いや学び合いをとおして「最大公約数」を見つけることがスタートになったり、いろいろな人や団体がいろいろな活動をしながらつながって行く過程で、あっ「公約数だ」と発見したりしていくものだと思います。「楽しいことを考えて、ニヤニヤしたり、ウキウキしたりして、やってみて、振り返って、また新しいことを考えてウキウキしてやってみる」「やってみて面白かったらもっとやっちゃおう、駄目だったらちょっと変えてみよう<sup>iv</sup>。たぶん日常的に取り組んでいるこんな「しなやかさ、いい加減さ」を大切にすることが、人を巻き込んだり、みなが自分事として考えていたりしていくことにつながるのだと思います。

もうしばらく、先行き不透明な情勢が続きます。この一年、行き当たりばったりの面もありましたが、研修実施や各種調査にご協力いただきありがとうございました。

来年度の研修も工夫を凝らしながら計画中です。臨機応変にしなやかに取り組んでいきたいと思ひます。

島根県立西部社会教育研修センター  
所長 舟木志郎

<sup>i</sup> 「国立教育政策研究所社会教育実践研究センター」を略称して

<sup>ii</sup> 『社会教育経営論ハンドブック』（国社研 編集・発行）p46

<sup>iii</sup> 『社会教育 2019-7』p54

<sup>iv</sup> AAR（Anticipation-Action-Reflection）サイクルの考え方『社会教育 2020-10』pp82-83でも紹介されている

# 研修・講座内容をふり返って（令和2年9月～令和3年2月）

## 社会教育委員研修

10月2日（金）あすてらす

一行動する“社会教育委員”をめざして一

メッセージ：「しまねの社会教育委員に向けて」

島根県社会教育委員連絡協議会会長 有馬毅一郎氏

講義：「社会教育委員に求められる力と市町村担当者の役割」

青山学院大学准教授 山本珠美氏

実践発表

発表1：「つながる奥出雲 ～人づくり、地域づくりをめざし行動する社会教育委員をして～」

奥出雲町社会教育委員 田中靖子さん

発表2：「社会教育について一緒に学んでみ益鹿」～益社連の取り組み～

益田市社会教育委員 鹿野浩一さん

津和野町社会教育委員 吉永よしかさん

吉賀町社会教育委員 上山豊和さん

パネルディスカッション：「行動する“社会教育委員”めざして」

奥出雲町 田中靖子さん/石原弘治さん

益田市 小野春美さん/中島光太郎さん

コーディネーター 山本珠美氏

全体講評

社会教育委員の活動は、社会教育活動の基盤形成

社会教育委員自身が学び、その学びを「政策提言」活動にいかす

感想

「社会教育委員自身が学ぶ」を念頭に頑張ります。（委員）

意識と自覚によって活動に影響があると感じた。（委員）

事務局の意識次第で、委員さんの動きが変わると痛感した。（行政）

行政が委員さんにどんなミッションを依頼するかが最大の“肝”だと思った。（行政）

## ファシリテーター養成講座

2

9月25日（金）いわみーる

地域でのファシリテートを思い描く！  
学習プログラムのデザイン

グループ演習：「私のプログラム紹介します」

ペア演習：「学習プログラムの企画・設計①」

グループ演習：「手法ごとのファシリテートのポイント」

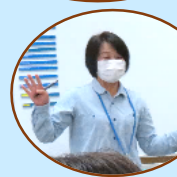
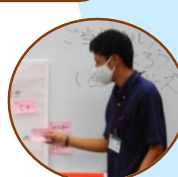
ペア演習：「学習プログラムの企画・設計②」

ふり返り：「第3回に向けて」

10月13日（火）いわみーる

参加者が互いに引き出し・学び合う  
ファシリテート体験

<ファシリテート演習>  
<ふり返り>



イメージしていたと思うようにできず、説明するのが難しく…悩みはつきません。

他の方の頑張る姿に、自分をふり返り進むことができました。

感想

自分で何をやっているのか、やりたいのか、どんな発表になるのか不安もあった。発表を終えると達成感と、あれもこれも学んでいたなと強く感じた。

学習したこと、日々の中で参考になることが多くありました。チームワーク、目的意識等。

ふり返りの手法を教えてほしかった。

とても勉強になりました。とくに「発問」「質問」「問い」の違いは納得しました。

目的としているゴールへどうしたらうまく着地できるかを、相談する時間が足りなかった。

『講義や実践発表を通じた、「公民館の役割」や「PDCAサイクルによる事業の見直し」の理解』

「ねらいと評価を一体にした事業の全体構想、事業計画の立案」

講義 : 「人づくりの拠点となる公民館の役割」  
実践発表 : 「取組の実際と分析」

説明①演習① : 「全体構想シートのブラッシュアップ」  
講義 : 「評価の視点と指標について」

「ホーランエー 伝統文化に触れる」  
益田市 高津公民館主事 植田三栄子さん

演習① : 「全体構想シートのブラッシュアップ」  
説明② : 「全体構想ミニミニプレゼンについて」

説明 : 「PDCAサイクルと地域課題・学習課題の設定について」  
演習① : 「地域課題と学習課題の設定」

演習② : 「全体構想ミニミニプレゼン」  
ふり返り : 「今日、一番心に残っていること」

学習課題設定シートを作成  
演習② : 「全体構想シートを使っての事業の再構築」  
ふり返り



「事業実施の計画とアンケート作成」

感想

説明① : 「実施展開シートの作成について」  
演習① : 「実施展開シートの作成」  
説明② : 「アンケート作成について」  
演習② : 「アンケート作成」  
演習③ : 「事業紹介ミニプレゼン」  
ふり返り : 「事業実施に向かって」

・評価のもつ役割について、とてもよくわかった。  
・ねらいを考える大変さ・大切さを前回に引き続き実感した。

昨年までは、5回のシリーズ開催でしたが、今年度は、3回の実施となりました。



公民館等職員研修



コーディネーター研修

11月27日(金) いわみーる

「今、求められる コーディネーターの動きとは」

説明 : 『結集！しまねの子育て協働プロジェクト事業の視点から』  
実践発表 : 地域学校協働活動の実践  
「地域が一体となって歩む」



感想

事例発表が2つとも参考になった。  
押しすぎず引きすぎないこと、対話を大切にすることを意識して活動していきたい。



佐田中学校区地域学校協働活動推進員 大崎強さん  
出雲市教育委員会 派遣社会教育主事 加藤泰寛さん  
「ふるさと教育を通じて新たな地域づくりを目指す」  
大田西中学校区地域教育協議会会長 友村光男さん  
温泉津小学校学校支援コーディネーター 山根澄子さん  
大田市教育委員会 派遣社会教育主事 岩谷和樹さん

演習 : 「今、求められるコーディネーターの動きとは」  
講師からのメッセージ 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター  
総括研究官 志々田まなみ氏

以前のふるさと教育のように、学校・地域そして家庭を共にする研修がほしい。



社会教育主事講習B

1月21日(木)～2月18日(木)  
いわみーる

生涯学習概論 (各場所でインターネット受講)  
社会教育経営論 (各場所でインターネット受講)  
生涯学習支援論 (インターネット受講+集合研修)  
社会教育演習 (集合研修)

支援論最終日  
ファシリテーション演習

演習最終日の発表の様子  
東部会場とつないで

支援論

演習



# 令和2年度こんな研修・講座を開催しました！

## 対象者別研修

**社会教育委員研修**  
(10/2) あすてらす  
社会教育委員の役割を  
確認し、求められる力を  
学び、具体的な動き  
や社会教育行政との連  
携のあり方について考  
える研修を実施。

**公民館等職員研修**  
(10/6・11/17・12/3)  
いわみーる  
公民館等職員に必要な事業  
推進のための専門的知識・  
技能を学ぶ研修を実施。

**コーディネーター研修**  
(11/27) いわみーる  
学校・家庭・地域等との連  
携・協働を進めていく上で  
大切なコーディネート上の  
ポイントについて考え、今  
後の実践に向け意欲を高め  
るための研修を実施。

**ファシリテーター養成講座**  
(8/27・9/25・10/13) いわみーる  
地域づくりに主体的に参画する人  
づくりに向けて、「地域魅力化プ  
ログラム」を参考にしながら、参  
加型学習を活用してワークショッ  
プや話し合い等を企画・進行でき  
る力を高めるための研修を実施。

## 全体研修

**しまねの社会教育基礎講座**  
(7/14) 柿木基幹集落センター  
(7/16) 江津市地場産業振興センター  
しまねの社会教育の基礎的な考え方や実際を  
知り、社会教育を推進していくために必要な  
ことやできることを学ぶ講座を実施。

**地域魅力化プログラム体験講座**  
本年度は、市町村支援として開催。

## 社会教育主事講習B

**生涯学習概論** (1/21～1/27) オンライン  
**社会教育経営論** (1/28～2/3) オンライン  
**生涯学習支援論** (2/4～2/10) オンライン+いわみーる  
**社会教育演習** (2/12～2/18) いわみーる

社会教育主事となりうる資格を付与することを目的とした講習を実施。

## 一年をふり返って（職員感想）

「新人1年目」が終わろうとしています。

緊張の中、初めての研修で感じたことは、「顔を合わせる」ことのすばらしさです。参加者の皆様が、自分たちの地域について楽しそうに語り合う姿を初めて見て、こんなにも地域のことを考えている方がいるのだと正直驚き、うれしくなる思いでした。そして、自分もその中で力になれるようさらに努力していきたいと思いました。1年通して、たくさんの方と出会うことができました。そして、またお会いできることが楽しみです。今後ともどうぞよろしくお願いたします。  
(社会教育主事 木地谷里志)

世の中の例に漏れず、センターにおいても、集合研修を基本スタイルとする様々な研修の実施方法を変更したり、リモートで会議を行ったりと、これまでにない取組をせざるを得ない一年でした。個人的には、「リモートはちょっと・・・」と苦手意識が前面に出てしまいましたが、県内の公民館等の取組を聞くと、個人的な思いにとらわれず、どんどん新たなチャレンジをしていくべき、と改めて感じています。

(社会教育主事 佐々木努)

4月、二人の新しい職員を迎えてのスタート。これは、いつもの光景。研修の先延ばし、研修形態の模索、感染症拡大予防への対処等など。これは、経験の無い光景。経験の無いことへの対処がいかにか難しいか。錯綜する情報に、一体何が正解か、どこまでなら許容できるか、最後には、「やってみるしかない」との思いも。「経験したことのない変革が起こる」といわれる、Society5.0の到来に向けた日々の生活や職務としての研修の在り方を、おっかなびっくり試すような一年でした。まだまだ新型コロナ対応は続きますが、既に「未知ではない」ことが強みです。  
(所長 舟木志郎)



昨年の4月から西部社会教育研修センターで働き始めて、あっという間の一年でした。毎日、見るもの聞くものが新しいことばかりで、戸惑うこともあり、緊張もしていましたが充実した時間を過ごすことができました。

私は、研修等を直接するような仕事ではありませんが、コロナ禍であってもたくさんの方が、研修に参加される姿を見て、非常に意義のある仕事に関わっているのだと実感しました。

何も分からない私でしたが、周囲の方たちに支えていただき無事に一年働くことができました。  
ありがとうございました。  
(田淵由香)

季節は変わらずやってくるのに、なんとということでしょう。世間の様子は大きく変わってしまいました。

最初は、集うことが許されず、大きな声で笑い喋ることもできない。一人住む母は、電話の向こうでは気丈に笑っていましたが、コタツにあたってテレビを見るばかりとのこと。週1回の高齢者学級が再開したことで大きな楽しみが戻り、それにプラスしての親孝行。昔懐かしいCDをプレゼント。大きな声で歌い楽しんでくれているようです。(声を出すのは大事です！)

「集って楽しんで学んで」・・・公民館やまちセン・コミセン等が、住民に寄り添う大きな役割を果たしていることを、改めて実感した一年でした。(家田ゆかり)